

JAXA の小沢室長が資料 31-2-1 (JAM 実験装置の安全評価) を 5 分ほどで説明した後、2 分ほどの短い質疑応答があった。

(JAM の構成品と実験装置(ラック)の安全に関する調査審議は済んでいるが、今回暴露部に搭載する「全天 X 線監視装置 (MAXI)」と「宇宙環境計測ミッション装置 (SEDA-AP)」の準備が整ったので安全部会に掛ける。打上げは 2009 年 5 月を予定している。)

松尾委員長:何かご質問ございますか。はい、どうぞ。

青江:混乱しちゃったんですがネエ。中に居たらネ、人が居る所なんだからネ、何か漏れたり何か色んな事があると、大変ですよネ。そりゃ安全をキチッと見なきゃいかん。其れはそうなんだと思うんですネ。外に固定して置いとる奴ネ、此れの安全を見ると云うのは何で安全見なきゃいかんのでしたっけ¹。

JAXA 小沢:はい、あの、段階的に考えますと、スペース・シャトルで先ず物を運びますので、スペース・シャトルからのヒドラジンのリーク等が万が一有った場合に、装置が持っている静電気等で発火してはいけないと云う事が先ず御座います。それから軌道上にあっては、船外活動する宇宙飛行

士が居りますので、ガラス等が有って其れが破損した場合に、ガラス等によって宇宙服を傷付ける。そう云うものを安全指針に基づきましてハザード、危険要因として識別して御座います。

青江:此処の此の外に置いてある装置 MAXI と何とかにそう云う宇宙服を傷付ける様なものが有る訳ですか。

JAXA 小沢:はい、あの、触れない様なコントロール、制御をして御座いますけれども、元々ジャイロだとかですネ、実験装置の一部にガラスを積んで御座います。

青江:そうすると、行く時のシャトル内での発火と言うか、其の問題と、それから置いとる時の宇宙服を傷付けるかどうか、此の 2 点だけ?

JAXA 小沢:いえ、あの、詳しくはもう少し別に報告をする計画で御座いますが、現在の処、安全指針と対応した形で、此の装置が持っている危険要因を 10 点近く識別して御座います。

青江:ああは、そんなに沢山。

松尾委員長:宜しいですか。では、此れを受けまして信濃さんの方から

続けて文科省の信濃参事官が資料 31-2-2(同 調査審議について)を 3 分弱で説明した後、池上安全部会長が 1 分に満たない部会長所信表明があった。

松尾委員長:審議付託と云う事を決定と云う事にさせていただきます。

¹ 翌日安全部会が開催され、特別委員の先生方が様々な発言をする事になったのだが、技術者ではない青江委員の方が余程確かに状況を把握されている。暴露部に置かれる実験装置が ISS と搭乗員の安全を脅かす心配が少ないと感じるのは、極めて正常である。(詳しいイチャモンは安全部会の傍聴記録を。)

どうも有難う御座います。安全部会長どうぞ。

池上:早速明日からはじめたいと云う風に思っております。ご案内の通り安全部会では打上に関連して、地上安全と飛行安全をやってる訳なんですけど、此れについては先程議論御座いました様に、宇宙飛行士が近くに居る所で安全を確保出来るかどうかと云う事で、審査すると云う事になって居ります。出来るだけあの一、キチッと其の辺進めて行きたいと思っております。

松尾:ええと、本日用意した議題は此処までです。